

斜里町立学校部活動の課題

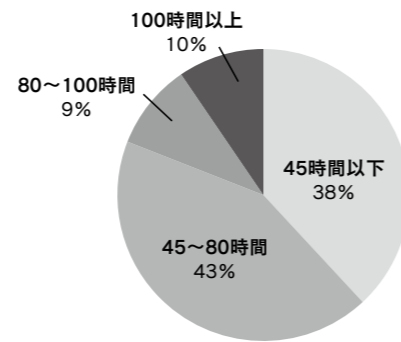
少子化・教員の働き方改革

1. 少子化により将来的に持続可能な活動が難しい

部活動の地域移行が進められる大きな理由は少子化です。斜里町立学校で行われている部活動についても、一部団体競技についてはチームを編成することが難しい状況もあり、今後、その傾向は一層進行することが予想されます。現状の学校部活動では、子どもたちのやりたい・頑張りたいという思いに応えられなくなってきているという課題があります。



■ 町立中学校教員の一月あたりの時間外在校等時間^{※1}の割合（令和5年度）※学校独自調べ



対象：教職員21名（管理職・事務職員を含む）

注1：時間外在校等時間とは、正規の勤務時間（7時間45分）を超えて働いた時間のことです（校外指導・引率・研修等を含む）

2. 教員の働き方の見直しと学校教育環境の質の向上

生徒数減に伴う学校規模の縮小により、教員の数は減少しています。また、「学校部活動は学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」とされる中、部活動指導は、教員の負担も大きい上、専門的指導の難しさも課題となっています。

教員の働き方を見直すことは、学校教育の質の向上のためにも大切な視点です。

【参考】学校・教師が担う業務に係る3分類（文部科学省平成31年の中央教育審議会答申）

基本的には学校以外が担うべき業務

- ・ 登下校に関する対応
- ・ 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応
- ・ 学校徴収金の徴収・管理
- ・ 地域ボランティアとの連絡調整
（※その業務の内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者、地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等が担うべき）

学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務

- ・ 調査・統計等への回答等（事務職員等）
- ・ 児童生徒の休み時間における対応（輪番、地域ボランティア等）
- ・ 校内清掃（輪番、地域ボランティア等）
- ・ 部活動（部活動指導員等）
（※部活動の設置・運営は法令上の義務ではないが、ほとんどの中学・高校で設置。多くの教員が顧問を担わざるを得ない実態）

教師の業務だが、負担軽減が可能な業務

- ・ 給食時の対応（学級担任と栄養教諭等との連携等）
- ・ 授業準備/学習評価や成績処理（補助的業務へのサポートスタッフの参画等）
- ・ 学校行事の準備・運営（事務職員等との連携、一部外部委託等）
- ・ 進路指導（事務職員等との連携、一部外部委託等）
- ・ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応（専門スタッフとの連携・協力等）

— 持続可能な子どもたちのスポーツ・文化芸術活動のために —

部活動の地域移行を進めます

近年、学校の部活動は全国的な少子化により、部員数が少なく活動ができなかったり、大会に参加できない等、従来からの活動を継続することが難しくなっています。このような中、子ども達の豊かな活動を持続可能とすることを目標に、学校部活動を段階的に地域のクラブ活動等に移行する（=部活動の地域移行）国の方針が示され、都道府県、市町村においても国の考え方に沿った取り組みが求められています。

部活動の地域移行って？

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するもの。なお、今、「部活動を地域にそのまま委ねるのではなく、地域全体で幅広い活動を支える」という考えから「地域移行」の名称を「地域展開」に変更する議論が進められています。

学校部活動

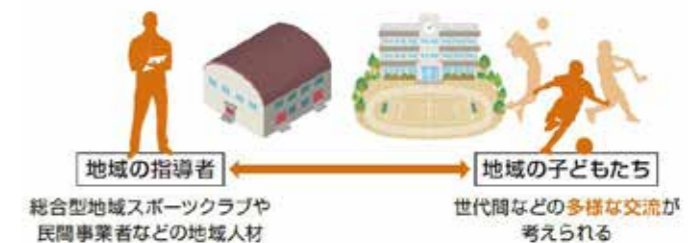
- ・ 学校が主体となって行われる部活動
- ・ 学校の中で実施
- ・ 複数校でまとまって一つの部活動を行う合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用すること（地域連携）を推奨

地域クラブ活動

- ・ 地域が主体となって行われる活動
- ・ 市民体育館、公民館、学校体育施設など、多様な場所で実施
- ・ 多世代・多様な活動



地域クラブ活動 例：〇〇市町村での地域クラブ活動



〈出典：スポーツ庁〉

【参考】部活動の地域移行について

国・北海道の考え方

- 「地域の子ども達は、学校を含めた地域で育てる」
- 「地域の実情に応じ、スポーツ・文化芸術活動の最適化を図る」
- 「公立中学校等を対象として、まずは休日の部活動から段階的に地域移行をする」
- 「令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域の実情に応じ可能な限り早期の実現を目指す」

斜里町立学校部活動の今

今、斜里町は部活動地域移行の過渡期です。子どもたちの"やりたい"を叶える場所を守り続けていくため、変わりつつある部活動の現場取材しました。



野球部の地域移行に向けて 知床斜里野球少年団

もんでん しんしょう
門田 真承 コーチ

小学校～大学まで野球を経験。一時は野球から離れるも、地域に関わりたいという思いから斜里中学校野球部の手伝いを始める。その後、顧問の先生からの相談により知床斜里野球少年団(中学生の部)の外部コーチを務める。

地域の实情に沿った部活動のあり方

斜里中学校野球部は、教員の働き方改革を検討する中で、練習回数が減ってしまう子どもたちのために、斜里町野球連盟に協力を依頼。その後、協議を重ね、中学生の少年団への入団が可能になり、部活動がない毎週水曜日は少年団で活動しています。

門田さんは外部コーチとして指導をする中で、地域移行の必要性と課題を感じるといいます。「地域移行は教員の働き方改革において必要であると思います。しかし、子どもたちの活動機会がなくなってしまうことは望みません。現在は先生が中心となり、そのお手伝いをしていきますが、地域移行をした際に、学校部活動と同様の時間帯では担い手不足が懸念され、その人材をどう確保していくかが課題だと思えます。また、中には地域住民として指導に携わりたい先生もいるようなので、その視点からも働き方改革は急務ではないでしょうか」

これからも子どもたちの未来のために、担い手の皆さんの声を聞きながら、地域の实情に合わせた柔軟な体制づくりが求められます。



美術部地域移行としての試行事業 しゃりアートクラブ

10月から「しゃりアートクラブ」が公民館ゆめホール知床の事業※として、中学生を対象にスタートしています。中学校は令和6年度から新一年生の美術部の入部を停止。入部希望者の受け皿として、子どもたちが専門講師の教えのもと、表現と創作活動が自由にできる場所づくりを目的に開設しました。

子どもたちの「やりたいことができる」「新たな発見ができる」環境を理想に、今後も活動を続けていきます。

【講師】川村芽惟(美術家)、戸田実琴(イラストレーター)
※合同会社北暦が講座企画や美術的指導を担当しています。
【内容】スケッチ、版画、印刷物の編集作業 など

しゃりアートクラブについて 圓ゆめホール知床 ☎0152-22-2222



本特集について 圓 斜里町教育委員会 ☎ 0152-26-8391

斜里町の取り組み

これまでの取り組み

- 令和4年度 関係団体への説明開始
- 令和5年度 部活動地域移行の受け皿と承認された少年団等には、中体連等への参加費用を助成
- 令和6年度 部活動地域移行検討協議会を設立
児童生徒・保護者・教職員アンケート実施



斜里町の部活動地域移行の考え方

- 斜里町は「部活動地域移行」について、子どもたちが将来にわたり、スポーツや文化芸術に継続して親しむことができるよう、**子どもたちを中心に置いた取り組み**とします。
- 部活動の指導が教職員の長時間勤務の要因や、指導経験のない教職員にとっての負担となっていることから、**学校の働き方改革**を踏まえて取り組みます。
- 令和5年度から令和7年度末までを目標に、まずは**休日の部活動について、地域での活動が可能な種目から地域への移行**を目指します。
- 将来的な体制は「民間の地域クラブへの移行」を当面の目標としますが、国、北海道、近隣自治体の動向を踏まえ、**子どもたちにとってより良い環境づくりに向け柔軟に対応**します。

【部活動地域移行案】総合型スポーツ(文化)クラブの設立

斜里町では、まずは「休日」の地域移行を進めながら、将来的な「休日・平日」を通じた方法について考える必要があります。

現時点では、地域の人や教員、外部指導専門員等の指導者登録や、大会参加事務、活動場所等の調整を一体的に担う「総合型スポーツ(文化)クラブ」の設立を視野に検討しています。

※参考イメージ図

